

## 第7回 / 「フランスの教育のあゆみ・しくみと教科書」

星野常夫

文教大学教育学部教授（文教大学附属教育研究所研修部主任）

第7回のテーマは「フランスの教育のあゆみ・しくみと教科書」である。2000年11月3日から5日までの三日間、展示場所は8号館8201教室であった。

フランスはヨーロッパの中でも長い歴史と伝統をもつ国で、いまでもその文化は多くの人々に注目されている。その一方、フランス国内で行われている教育に関する情報は決して多くはない。今回の目的は、フランスで使われている教科書の展示はもちろんのことフランスという国の教育の全体像を明らかにすることである。

展示内容は大きく分けて次の四つの部分から成っている。

- 1 フランス教育のあゆみ（歴史）
- 2 フランス教育のしくみ（制度）
- 3 フランスの教科書の展示と解説
- 4 世界各国の教科書展示

教育のあゆみ（歴史）では、18世紀末のフランス革命からはじまった国民教育・公教育の成立へむかう歴史を教会権力との勢力争いの様子を含めて概観した。

教育のしくみ（制度）では、長い歴史と伝統をもつフランス教育システムの現在の特徴を明らかにした。

フランスの教科書の展示と解説では、フランスの粋でおしゃれなイラストがのっている小学校の算数と公民教育の教科書の一部を翻訳し40冊の教科書を展示した。

そして例年のように教育研究所が所有している世界各国の教科書展示もあわせて行った。マレーシア、中国、ロシア、バングラディッシュ、トルコ、オランダ、ドイツ、タイ、フィ

ンランド、アメリカ合衆国の国々計63冊の教科書を展示した。

展示の方法について特に配慮をした点がある。今回の企画の意図は、関心の幅広い参観者にフランスの教育像をわかりやすく伝えることにあり、視覚的にもフランスの教育の実態を把握できるようにしたいと考えた。そのために展示パネルの文はできるだけ簡潔にし、活字も大きくし、図版や写真などのイメージを多用した。アンケートの結果は、おおむね好評であった。その図版の一部を最後に掲載する。

また、以前NHKフランス語講座の出演者であったルヌ・ル・クレール嬢に今回の展示の監修を引き受けていただいたが、期間中も会場に在籍し参加者からの質問に対し直接答えてもらった。

参観者は、土曜日を含んだ三連休ということもあり、3日間合計で468名という大きな数字となった。また参加者の内訳は、文教大生を筆頭に、卒業生、他大学生、高校生、在学生の家族などであった。

参観者にアンケートの記入をお願いした。項目は次の四つである。

- 今回の企画について
- フランスの教育について
- フランスの教科書について
- 諸外国の教科書について

である。今回の教科書展の雰囲気や様子がよく伝わってくると思われるので、その回答のいくつかを以下に抜粋する。

今回の企画について

・日本のことしか知らなかったので、フランスのことを知れてとてもためになり、また、世界の国々は独自のものを持っているのだと改めて実感しました。日本と世界は本当に違いますね。教育とは、人の形成において大きな影響を与えるものだと思うので、他国の人を知る手段の一つとして、教科書展はよいと思いました。 (文教大生)

・私は文教大学を受験する者で、オープンキャンパスに来たついでに寄ってみたのですが、この教科書展では、今まで自分が知らなかったことや、当たり前と思っていたことが、他の国では違うというようなことが、とても勉強になったと思います。自分が文教大学に入学したら、ぜひ、このようなことをやってみたいと思います。 (高校生)

フランスの教育について

・私はろう者なので、フランスが世界で最初のろう学校を建てたこと、経緯は知っていたが、顔は初めて見ました。思っていたより太っていたので驚いた。ありがとうございました。まず、プレゼンテーションの技術が素晴らしい。大きな文字で要点をしっかりと捉えている。フランスの教育に関しては、時間数の少なさに驚く。現在の日本では、ゆとりの名のもとに、時間数削減が図られているが、逆に学力低下を心配する声も多いようだ。フランスのシステムがどれほどの効果を上げているのか知りたかった。 (自営業)

フランスの教科書について

・日本の教科書とちがって、挿し絵が多かったし、カラフルなものが多かったので、これなら楽しく勉強できるだろうと思った。フランスは最も授業数が少ないとありましたが、それでもゆとりをもって勉強できるように感じた。(特に、目覚まし教科はとても興味深かったです)来年もぜひこのような企画をお願いします。 (文教生)

・文はよくわからないけれど、日本の教科書とは、まったくちがう書き方をしていたので勉強になりました。このようなことを自由研究にして、自分で調べてみようと思いました。

(中2)

諸外国の教科書について

・中国の小学生の教科書が、とてもうすいことにおどろきました。こんな機会がなかったら見れることもなかったと思います。ありがとうございました。 (小学生)

・国によって、それぞれの文化があるんだということが、教科書を見ることによって実感できた。興味深い展示だったと思う。

(文教生)

・歴史の事項ひとつにしても、日本とは違った見方があるはず。今後海外に行ったら、教科書を買って、そこらへんを研究したいと思います。よい雰囲気でした。毎年続けてください。 (文教生)

次の図版は「教育のあゆみ」で使用したものである。フランス革命以前教育を担ってきた教会権力と革命以後の教育を担う共和国側との争いをカリカチュアしている。

